

令和2年度 まちづくりカフェ 概要

日時 : 令和3年2月9日(火) 18:00~20:00
場所 : 古今 cocon (鶴岡市山王町8-18) より Web 配信
参加者 : 12名
主催 : 山形県

新しい視点で活動している若者等の事例紹介や考え方に触れることにより、商店街関係者や地域住民等の意識啓発、まちづくりに取り組むきっかけづくりや参加者同士のネットワーク形成を目的として「まちづくりカフェ」を開催しました。

▼ 事例発表

《くしびきこしゃってプロジェクト 代表 宮城 妙氏 (鶴岡市在住)》
ー農業とデザインで描く“これから”ー

東京で家具のデザイン等をしていたが、東日本大震災を契機として2012年にUターン。以来、半農×半デザインの活動により生計を立てており、くしびきこしゃってプロジェクトの活動はほぼボランティア。

デザイナーとしての活動は、ロゴデザインなどのグラフィックデザインを中心に、モノのデザインや空間のデザインなど。本日の会場である「古今 cocon」のロゴデザインや、2019年には「あっちこっちマップ」という冊子のデザインや編集も行っている。

くしびきこしゃってプロジェクトとして、20代から40代のメンバーで、こしゃってマルシェの開催、森と木プロジェクト、婚活プロジェクトを実施。特に「こしゃってマルシェ」では、手づくりをテーマに、①作った人が直接販売するマーケット、②地域の魅力を学び、味わうワークショップ、③地域の魅力を発信する場づくりを行っている。

Uターンした当時は何もない田舎と思い込んでいたが、都会と同じような華やかさや刺激はないけれど、地域に潜り込んでいくほど、山形らしいきらめきやガツンとした刺激がある。まだ出会えていないディープな魅力もきっとあるだろう。

定期的にマルシェを開催することで、この地域で暮らす楽しさや誇りをお互いに交換し、共有したい。そして、マルシェを楽しんでくれている子どもたちが、いずれ生まれたところに帰ろうと思えるような郷土愛を育てていきたい。庄内でも、山形でも、多様な人たちが活動しているので、自分もその一員となって、活動を続けていきたい。

《古今 cocon オーナー 富樫 あい子 氏（鶴岡市在住）》

ー古今 cocon のはじまりとこれからー

鶴岡山王商店街で、子育てをしながら複合施設「古今 cocon」を運営。

古今 cocon では、こしゃってマルシェで知り合った方にカフェ「パラディーズ」とフラワーショップ「チョコレートコスモス」として入ってもらい、そのほかにも、器やジャム、ピクルスなど、マルシェで知り合った方々の作品を取り扱っている。自身で運営するレンタルスペースでは、ランチ会やベビーマッサージなど子連れでのイベントを定期的に行っているほか、コワーキングスペースやオンライン配信のスタジオとしても利用されている。

元々、カフェを経営したいという夢を持っており、住居と店舗がつながっていれば、家賃が不要で子どもと過ごす時間も確保できるのではと考えた。半年間の家探しの末、義父が見つけてくれた古民家の部屋の造りや設えに強い魅力を感じ、購入。住居と店舗を同時に改装し、2019年に古今 cocon としてオープン。はじめは、自分ひとりで空間を作ろうと考えていたが、カフェやお花屋さんなど、自分でできないことをお願いすることにより、たくさんの人とのかかわりを得ることができ、結果として、自分ひとりでは見えなかった景色を見ることができた。

150年前に旅館として建てられた歴史ある建物が、醤油屋となり、自分たちも手を加えて現在は複合施設となっている。建物だけでなく、古くても変わらない価値を持ったもの、古さが価値を持っているものを活かしてまちづくりがなされていけばいい。たまたまの出会いや、商店街の方々の協力で住むことができたこの建物から、古くからある建物や技術、モノ、食、文化などの価値を改めて見直す発信をしていきたい。

▼ パネルディスカッション ー地域で自分ができること、やりたいことー

○コーディネーター 鶴岡山王商店街振興組合

理事長 阿部 等 氏（鶴岡市在住）

○パネリスト くしびきこしゃってプロジェクト

代表 宮城 妙 氏（鶴岡市在住）

古今 cocon

オーナー 富樫 あい子 氏（鶴岡市在住）

（阿部氏）

まちづくりにどのようなイメージをお持ちか。

自分としては、まちづくりをやっているというよりも、自分たちのまちをよくしたいと思ってやっていることがずっと続いている感じ。

(宮城氏)

自分とはかわりのないところで誰かがやっているものなのかなというイメージがあった。自分では特にまちづくりをしているという意識はなく、自分が「こうあったらいいな」という地域の未来のために活動できることはないだろうかと思い、活動してきたのが実情。

(富樫氏)

ここに来て、運営している今になっても、まちづくりをしているのかわからない。

(阿部氏)

でもまちづくりの場になってしまっている。

(富樫氏)

自覚なしにやっちゃっている？ところもあるのかな。

(阿部氏)

活動しながら色々と大変なことも多いでしょう。

(宮城氏)

大小失敗を繰り返しながらやってきたところもある。失敗したと思うことや壁を感じることは多々あるが、一人で抱え込むと、絶望感などをすごく感じてしまうので、仲間に相談するようにしている。

(阿部氏)

こしゃってマルシェのイメージとして「若い人の生きがいくくり」というところがあって、「あそこに行って表現をしたい」とか、自分たちが集まれる場になっている。ああいった方向性は、やはりコーディネートしながらその方向にもっていこうと考えたりするのか。それとも、自然とああいう形になっていったのか。

(宮城氏)

思いもあって企画してきたが、地域のお客さん、出店者さん、ワークショップの講師に雰囲気を作ってもらったところがある。

(阿部氏)

古今 cocon さんは、色々な活動をされているが、集まってこられる方を「こんな人だったらいいかな」などとチョイスしたり、仕掛けたりしているか。

(富樫氏)

受け身で受け入れていたところがある。周りにいる人たちから仕事をいただく機会が多く、周りの方とのつながりをとても強く感じる。マルシェでの出店者同士のつながりなどは、自分の財産。

(阿部氏)

どこの地域も集落も同じだが、商店街の昔の人たちと若い人たちとの接点がなかなかないように思う。コミュニケーションや一緒になって活動を進めていくことが難しい時代の中で、地域の方とのコミュニケーションをどうしているか。

(宮城氏)

自分は、地域の人とどんどん一緒になって～というタイプではなく、活動を見ていただいているうちに、地域外の人からも来ていただけるようになって、段々定着してきたというか、認められてきたと感じる。

(阿部氏)

活動を始めて、もう 10 年？

(宮城氏)

今年は活動できていないが、7年になる。若い人も年配の人も一緒にやっていきたいという思いはある。中学校で地域のいいところ・ダメなところをアンケートする機会があり、「庄内弁があつたかくていい」「お年寄りが多い」「何を言っているかわからない」という意見があつたため、それらを組み合わせて去年の冬に『庄内弁かるた』のワークショップをやってみたり。掛け合わせも増やしていきたい。

(阿部氏)

古今 cocon さんは。

(富樫氏)

まだ 2 年で、地域の人とのつながりは手探り状態。

先日出席した地域の座談会でも同じ話題になり、世代を超えてのコミュニケーションの難しさを感じている方が多い。各世代の歩み寄りが本当に必要なのだと思うが、その取っ掛かりのようなものの一つとして、何かこしゃってマルシェのような仕掛けができないかと考えている。世代を超えた共通の楽しみを、例えば料理や趣味など何か発見してやってみたい。

(阿部氏)

個別の質問も来ている。Uターンを決めた理由と、半農×半デザインについて。

(宮城氏)

東日本大震災がきっかけとして大きい。会社勤めをやめてフリーランスをやっていた時期で、一から仕事を作るなら山形でやってみようかという話になり。農業も体力仕事のため、以前はデザイナー業を半分リタイアしてからでもよいかと甘く見ていた部分もあつたが、30代のうちに山形に戻ってよかったと思っている。

戻った頃は、仕事は全くなかった。デザイナーとしても模索中で、モノのデザインではない何かを仕事にしたいと思っていた。今の基軸はグラフィックデザインだが、はじめはお花屋さんでアルバイトをしながらマルシェの企画をしたり、その間子どもを2人出産して、マルシェのつながりなどで少しずつ仕事が増えてきたという感じ。

(富樫氏)

自分は片足が古今 cocon で、もう片足は家庭、というか主婦。妙さんの生き方は本当に憧れというか、自分では無理（笑）。

(宮城氏)

ひいひい言いながらやっている (笑)。

(阿部氏)

田舎では、デザインにお金を出すという習慣がない。物であるなら買うということがあるが、無形物にお金を出す習慣、感覚がない。その中でやっていくことは大変でしょう。

(宮城氏)

ないと思っていたが、仕事としてはあった。老舗のデザイン会社などの先輩方が築いてきたものがあり、それが大きかった。

(阿部氏)

古今 cocon さんのお家を買うきっかけについて。

たまたま古民家が好きということだったが、実際には結構な金額の投資が必要となる物件であり、その覚悟や踏み出すきっかけなどは。

(富樫氏)

家族の協力は大事だと思う。引っ越すこと自体は決まっていたので、土地を買って家を建てるか、古民家を買って改装するかのどちらかで、どちらを選んでも普通のサラリーマンがローンを組めるくらいの金額と決めていて、ここの改装費用もその収まる範囲にしようという決意のもと、この建物に決め、改装している。

(阿部氏)

商店街としても、醤油店が辞めてしまうときに「ここが空き家になってどうしようか」となり、ハウスメーカーがアパートにする話も出て、何とか阻止したいが空き家になってしまふのは避けられない、というちょうどその頃、古今 cocon さんの話があった。不動産屋からは「この建物には一銭の価値もない」と言われた。

(富樫氏)

「かえてマイナスだよ」とかね。設計士さんからは「改装する価値がない」と言われたりして、ショックだった。

(宮城氏)

新しくは絶対に作れない。お庭とかも素敵で、自分はすごく好き。

(富樫氏)

一度壊してしまったら二度と作れないので、何とか残したいという気持ちだった。

(阿部氏)

山王商店街は古い商店街のため、元々は町屋造りの建物が並んでいたが、もう8軒しかなくなってしまうっていて、そのうちの一番大きな1軒が今の古今 cocon。是非残していただきたい。

(宮城氏)

人が出入りして、新しい風が入ってきたことがすごい。建物にとっても、住んで、使ってもらえた方がよい。

(阿部氏)

まちなかキネマについて、質問がきている。

商店街の中ではないが、まちなかキネマという映画館があって、昨年5月に閉館してしまった。何とかしたいという市民の声もあり、鶴岡市と社会福祉協議会が建物を取得するところまできている。ただ、中身をどうするかというところはまだ何も決まっていない。色々と話し合いを続け、小さい方の映画館はそのまま残す方向になったが、大きい方の映画館も残してほしいという声もあり、まだ未定だが、建物自体は残すということになった。**まちなかキネマについて、どういう活用をしてほしいか、イベントなど是可以のかという質問**については、社会福祉協議会の方でも活用を考えていて、建物利用としては、半分で協議会の本部事務所と介護予防の施設にする計画があり、もう半分を山王商店街のまちづくりとして使ってもよいという話になっている。

また、その隣の土地も空いていて、元々は「奥の細道」の松尾芭蕉が3日間滞在した土地で、石碑が建っているが、市民にもなかなか知られていない。その旧長山邸の持ち主の方が、芭蕉のことにに関して使っていただけるなら提供すると言ってくれている。まだどのように行うか決まっていないが、活用について話し合いを続けているところ。そのように、この辺り一帯がまた、まちづくりの拠点になればと思っている。

(県)

チャットで質問が届いている。山王商店街の「これは」という他にはない特色や、強みなどがあれば聞きたいとのこと。

(阿部氏)

「これは」というのは難しい。

今、古い商店街と新しい商店街のせめぎ合いというか、新陳代謝の時期に来ている。経営者の平均年齢が80代に近づいてきており、辞めるところが出てきたり、入れ替わりの時期に来ている。これから、次世代の方たちが何かやっていくのだろうと思うが、「これは」というのはなかなか難しい。

(宮城氏)

ナイトバザールは長くやられていると思うが、何年くらいやっているのか。

(阿部氏)

もう30年近い。1回目の時に若手だったメンバーがそのまま変わらず30年経っているので、下の世代を見ると誰もいない可能性が高い。なので、これから皆さんが、例えば「山王ナイトマルシェ」とか、何かやってくだされればよいと思っている。

(宮城氏)

月1回のイベントをそんなに長く続けられていることが素晴らしい。

(阿部氏)

継続してはいる。ただ、マンネリ化と言えばマンネリ化している。

(富樫氏)

ナイトバザールは、人手がものすごいことと、若い人からも、よい意味での「何でもあり」

感がすごくよいという声を聞いている。そういうイベントは他にないと感じる。

(阿部氏)

他から見ると、「ちょっと貧乏くさい」イメージと言われることもある。裸電球に昭和レトロな感じで、「露店のような雰囲気がい」と言ってくれる方もいらっしゃる。

(宮城氏・富樫氏)

そのレトロな感じがよい。

(阿部氏)

子育て世代なども入ってきて、これから世代交代が始まるので、よろしくお願ひしたい。

(阿部氏)

「鶴岡にきたい」という方からの相談もいくつかあるが、ただ住むだけでなく活動したいという方たちもいて、それに合わせた受け皿がないか考えている。Iターン・Uターンの受け皿というと、なかなか難しい。

(富樫氏)

あまり受け皿はないのか。

(阿部氏)

よく「来てください」と言うが、コミュニティに新しく入るといことはそう簡単なことではない。しきたりなどもある。その辺についてはどうか。

(宮城氏)

自治会などもあり、「他人同士ではられない」というところが田舎ならではののかな。

(阿部氏)

まちなかと農村部でも違うだろうか。

(宮城氏)

違うと思う。自分は農村部のため、「若い人のつながりをもっと作ってほしい」と自治会の方でも思っているように思う。意外とI・Jターンのコミュニティなどもあったりする。自分の経験を活かして、間に入り潤滑油的な存在になったりできたらよいのかなと思ったりもする。

(富樫氏)

そのような存在が必要だと思う。地元で面倒を見てくれる人ということだね。そのようにIターン・Uターンして来た方の気持ちも分かる人が引き受けてくれたら心強いと思った。

(阿部氏)

コミュニティづくりもまちづくりも、それぞれ地縁組織、地域の人たちと志のある人たちの架け橋のようなものをこれから作ってほしい。

(阿部氏)

これからは、いかがか。

(宮城氏)

コミュニティをどうするかというところまでは考えていないが、自分も子育て世代であるため、自分たちの子供たちが大きくなったときにどんな地元を残せるのだろうかという発想では常々考えていて、いま自分ができることは何かと考え、動いている。櫛引地域は山間部でも市街地でもなく、中途半端なところ。商店街もなくなってしまい、若者が集えるところがない。買い物に行くとしたら市街地に行くというエリア。危機感もなく、このままではやばいなという思いがある。どうせなら面白い地域にしていきたいし、そういう人が点在でもいれば、面白い人が集まってくるのではないかと。鶴岡市全体で見ると面白い人が結構いらっしゃる。櫛引地域にもそういう人がいれば、点でなく面になっていくのではないかと。

(阿部氏)

自分も若い頃、この商店街をやばいぞと思っていた。今でこそ、若い人も来るようになったが、以前はこういうところに若い人は来ないものだとすら思っていた。

(宮城氏)

ずいぶん変わった、変えてこられた結果ということかな。

(阿部氏)

まだこれからかな。次の世代に引き継いでいかなければいけない。

(富樫氏)

「まちに入ってきてほしい」という方が、暮らす場所やお店など、実際に入る隙はあるのかなと思ってしまう。

(阿部氏)

以前はなかった。なかなか入り辛く、そういうところを少しずつ変えてきているところ。

(富樫氏)

商店街に来て日が浅いが、どんどん新しい風が入ってきたらよいと思っている。地域に入ってきてやすい雰囲気があり、実際に「ここ空いています」「募集しています」ということがはっきりしていればよいが、そんなことはない。「この地域に来たら、この人を頼ればよい」ということだけでも分かっているならば、まだやりやすい。

(阿部氏)

古今 cocon さんは、ちょうど我々が「何とかしたい」と思っていた時に来た話だったので、後押ししやすかった。「変な人が入ってきたのではないかと」など、田舎特有の好奇の視線はどうしてもある。

(宮城氏)

温かい目で見守ってもらえるムードなどがもう少しあるとよいのかもしれない。

(阿部氏)

最後に、これから何かやっていこうと思っていることがあれば。

(宮城氏)

デザインやまちづくり的な活動について、新しくて大きなことをやろうというよりは、小

さくても地域・エリアや将来にとって、解決したらちょっとこの地域が面白くなる、自分たちにも楽しいような課題解決を重ねていきたい。その先に、阿部さんが作られてきたような面になった楽しいエリアを見てみたいという夢がある。

(富樫氏)

古今 cocon がどんな風になっていったらいいかまだ見えていない。探り探りの部分が大きく、はっきりしたことは何も決まっていない。

(阿部氏)

今はコーヒー屋さんとお花屋さんが入っているよね。

(富樫氏)

この場所が変わり続けていったら面白いんじゃないかなという構想はある。今入っているお店が変わる可能性もあるし、例えばレンタルスペースのところに雑貨屋が入るとか、ちょっと余白のある建物だと思うので、建物のよさ、面白さを活かしていけたらよい。

(阿部氏)

以前、2階のスペースを高校生の皆さんに使っていただく話もあったよね。

(富樫氏)

自分の中のテーマに「居場所」というものがあり、レンタルスペースを始めたが、皆が安心して自分の言いたいことを言えて、そんな仲間作りができるような居場所としてもらえたらよい。居場所を必要としている人、大人だけでなく、高校生にも使ってもらえたりすることが、自分の想いともぴったりかなと思う。

以上

《配信の様子》

